



平成26年1月24日 第3巻(第15号)

発行： 東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F  
災害支援チーム TEL (03)3351-5038  
FAX (03)5366-1058  
mail:dsstsw@jaswhs.or.jp

\*\*\*\*\* TOPICS \*\*\*\*\*

## 1. 東日本大震災支援 石巻派遣職員を緊急募集!!

4月以降に石巻に赴任できる医療ソーシャルワーカーを募集しております。

詳細はホームページの募集要項をご覧ください。

## 2. 「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトン I」

### 「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトン II」

好評発行中です。活動継続の為の寄付になっています。皆さま、ぜひご購入のうえご覧ください！！

※詳細は、“3. 災害支援チームからのお知らせ”をご参照ください。



\*\*\* 目次 \*\*\*

1. 協力員として参加して
2. 石巻での活動の様子（概要から抜粋）
3. 石巻での活動の様子（FaceBook から引用）
4. 災害支援チームからのお知らせ
5. 事務所より

\*\*\* 1. 協力員として参加して \*\*\*

活動期間：2013年12月2日～12月4日

宮林 皇史(東京都 大久野病院)

**感想：**

私が経験した東日本大震災は東京の都心でした。震源地とはかなりの距離がある東京でも大きな揺れを感じ、不安を感じたのを覚えています。その日のニュースから、津波や被災地の映像が休みなく流れるようになりました。そのニュース見て私は、「被災地の人は大変だな」と感じる程度であったと思います。それは、災害支援活動に参加する前も一緒でした。今回、子の活動に参加させて頂き、被災現場を回り、震災経験者の方の話聞くことで、現地の人の震災後の思いや考え方が、少し理解できたのではと感じています。3日間という短い期間ですが、現地で生活し活動することで、現地に根付いていた助け合いの精神や、地域の密接さも肌で感じました。そして、石巻の人の強さを感じました。これは現地で実際に話を聞き見てきたからこそ感じる感覚だと思います。私自身、今回の活動で支援が出来たか判りません。だからこそ活動を終えた今は、離れた場所からでも少しずつ支援が出来ればと思っています。また、自分の経験を話すことでバトンが繋がればと思っています。

**活動を検討している皆さんへ一言：**

現地でしか感じられないことが山ほどあります。参加することで、東日本大震災とは何が起き、今どようになっているのか見て感じる事が出来ると思います。自分自身の経験値が上がり、今後の支援に必ず役に立つと思います。

活動期間：2013年12月9日～12月11日

井上 昭則(東京都 大久野病院)

**感想：**

「一体、私に何ができるのだろうか？」今回の災害支援は、私自身初めて被災地へ行き、初めて災害支援を行いました。その気持ちを強く感じながら現地に入りました。

震災があった日、現地の生活すべてを一瞬で破壊してゆく津波を写したテレビの映像

は、今でも忘れられません。その後もメディア等を通して現地が変化していることは伺っていましたが、たった数日間しか滞在しない外の地域から来たボランティアに現地の人は何を思うのか、どこまで心を開いてもらえるのか、そういったところに漠然とした不安を感じていました。しかし現地での3日間は、人の温かさに触れることのできる毎日で、現地の皆さんの強さを知ることができるものでした。

活動中にまわった女川、雄勝、大川地区の風景は、しばらく忘れられそうにありません。しかし、メディア等では到底感じるることのできない感情を、今回の活動で得ることができたと思っています。外部機関から現地支援をすることの介入バランスの難しさも感じました。しかし、現地での支援を『繋ぐ』ことの重要性は充分に感じることができました。これからも活動し続ける必要性を強く感じさせて頂いたと思っています。

**活動を検討している皆さんへ一言:**

2011年に震災が起こり、その後現地では何が起きているのか皆さんはご存知でしょうか？これは誰かに教わるよりも、実際に自らの目で見ることをお勧めします。他人事にするか自分事に引き込むか、恣意的かもしれませんがクライアントに対するソーシャルワーカーとしての姿勢や立場を見つめ直す機会にもなりますし、経験として得るものがたくさんあると思います。

活動期間:2013年12月9日~12月11日

山下 和真(東京都 大久野病院)

**感想:**

被災する前と後で、復興住宅や仮設住宅など住まいの環境に変化が起きたことで、それぞれの地域コミュニティに変化が表れ、それぞれの地域でのニーズが細分化されていることを感じ、その細分化された地域のニーズにアプローチしていくためには、1年や2年などでは完結できるものではなく、少数での活動は多忙であると感じ、『地域のソーシャルワークの難しさ』と『地域のコミュニティの大切さ』を学びました。また、活動期間中に訪問活動をする中で、快く住宅の中まで案内する方々が多く、初めて会ったばかりなのに色々な話をしてくださり『人の温かさ』を感じました。日々、病院の中での業務だけでは、学び・感じる事ができなかった体験であり、ソーシャルワーク活動の広さを感じました。そして、石巻市・女川町周辺、雄勝市立病院、大川小学校などを周って、自分自身が『聞いていた被災地の現状と目で見てきた現状のギャップ』と『自然の力の怖さ』を感じました。

**活動を検討している皆さんへ一言:**

是非参加してみてください。また、自分自身の目で石巻市・女川町周辺などを見てみることをおすすめします。

**\*\*\* 2. 石巻での活動の様子（概要から抜粋） \*\*\***

\*\*\* 1/6 久保木 美由紀 (現地担当)

生活再建支援課ミーティング参加:年末年始仮設内でのトラブル対応を共有。仮設異動希望ケースについて相談。

\*\*\* 1/7 久保木 美由紀 (現地担当)

市民活動家との懇談。地域安全を目的としたボランティアをされている。石巻市内の仮設で障害に対する考え方の相違がありその課題をどう対応して良いのかという話題を中心に懇談。

\*\*\* 1/8 久保木 美由紀 (現地担当)

引きこもり親の会：参加者 0 名。来年度の開催場所や内容について話し合い。

東日本大震災圏域創生 NPO センターへご挨拶：震災後 2 年半経過後の住民アンケート結果を預かり、協力していただいた住民の方へ届ける。引きこもりや中高年男性向けのイベントを共同開催する企画についても相談。

\*\*\* 1/10 久保木 美由紀 (現地担当)

生活再建支援課、健康推進課ご挨拶：当協会の来年度事業、体制について。今後、民有地の仮設を閉鎖していくにあたり、仮設間の移動あり。その際に生活課題を抱える方への個別相談がでてくる。量的には現段階でどのくらいあるか予測はできないがその際の支援に協力してほしいと。また、みなし仮設への健康調査で受診中断となっている方への支援要請有。1 月下旬から 2 月上旬に依頼予定と。

福祉総務課ご挨拶：災害ソーシャルワークを専門とする教育機関の方より遊楽館での支援体制や多職種との連携における SW の役割についてインタビューを受ける。

石巻市社会福祉協議会へご挨拶：現在の石巻市の状況や来年度について懇談。

\*\*\* 1/14 久保木 美由紀 (現地担当)

生活再建支援課ミーティング：今後、民有地の返還等で仮設間の移動が考えられる。その際に生活環境の変化から支援が必要な方が予測できるの為、その支援を当協会へ依頼される。

\*\*\* 1/15 久保木 美由紀 (現地担当)

からころ勉強会(小林・畑中)：テーマ『子どものメンタルヘルスについて』 26歳の時点で精神疾患に罹患している方は10代の頃から何らかの要因があった場合が多いとのデータが示された。また、子どもの心の発達には家庭環境、人間関係、教育、経済状況、社会状況、子どもの要素が関わるとの事だった。こども自身の要素以外は震災後3年目を迎える中で問題として挙げられることばかりなので、いかにそれぞれへのアプローチが大切か、という事を再確認した勉強会となった。

月例報告(12月活動分)：依頼経路は生活再建支援課、保健師、社協と増えてきている。件数的には依頼増となっても対応可能なことを伝える。みなし仮設の健康調査について2月初旬より依頼開始となる予定。件数多く対応困難であれば地区を決めてとの事。件数が未だ不明確なため件数をみながら相談していく。市等で仮設、在宅、復興公営住宅も含め

コミュニティ形成の在り方について検討されている。仮設のコミュニティ維持が難しくなっている様子や仮設間の異動(民有地の返還に伴う)があるため、生活環境が短期間で変化し、コミュニティ形成と共に個別に関わっていく必要のあるケースも増えてくることが予測できる。その部分にSWとしての支援が求められている。

\*\*\* 1/16 畑中 良子 (現地担当)

仮設支援連絡会:地域コミュニティ支援助成について、石巻市地域協働課職員より説明。今後空きが出てくる仮設と復興公営住宅のコミュニティづくり、町内会の再生、これらをNPOやボランティア団体が請け負っていけるのか?また、請け負うにはどんな方法があるのか等について検討。具体的な案は出なかった。

\*\*\* 1/20 久保木 美由紀 (現地担当)

ケース対応:①引きこもりの子を持つ親からの相談。外出は可能だが就労は約10年されていない。自身の体調不安があり、子の今後の生活を心配。医療機関ともつながり無い。保健師へ相談する事を了承いただき、次回同行訪問。

②全く外出できなかったが近隣であれば家族と外出可能となった。年金支給によりネットによる買い物が増えてきており、金銭管理の課題も出てきている。

\*\*\* 1/21 久保木 美由紀 (現地担当)

エリア主任会議(協力員):1年前とのニーズ、支援の変化を感じた。住民の自立支援に向けてのシステム、来年度の体制に向けての土台作りを目的に、地域(住民)のニーズがどこにあるのか、行政も含めて話し合える場は重要だと思った。

保健コーディネーター会議:仮設健康調査後のフォロー活動について各団体から報告。復興住宅への入居に向けた県の取り組みを聞いて、行政、各団体が現状と支援の方向性について意見交換。地域・ニーズに合わせた支援体制づくり、住民主体の体制作り(リーダー養成、自治会の機能維持等)が必要という共通認識が持てた。

\*\*\* 1/22 久保木 美由紀 (現地担当)

河南エリアミーティング:アルコールや子育て、隣人トラブルによる精神的ストレス等重度化したケースが目立ってきている。関わっている職種も多い。支援方針を共有して支援にあたっている。また、各職種が自立支援について検討する場所になっている。

### \*\*\* 3.石巻での活動の様子 (FaceBook から引用) \*\*\*

\*\*\* 1/2 畑中良子 (現地担当)

新年、おめでとうございます。

昨年までの活動にご協力いただいた皆様、本当にありがとうございます。石巻で今年も活動を続けて行きたいと思っております。そのためには皆様のお力添えが必要です。

さて、今日は石巻の人口について書きたい。2013年12月1日の推計人口では震災前の2011年3月1日と比べると1万2592人減ったとの事。震災後、市外や県外へ人口流出し、なかなか戻っていない現状がある。しかし、そんな中で自分の力を古里のために生かそうと決意し、地元を拠点として仕事に励む若者たちがいる。私たちが活動で協働させていただいている方の中でも帰省し、事業をされる方、違う地域から石巻へ転入し、頑張っている人もいます。そんな方たちと知恵と力を出し合い、今年も石巻で何が出来るかを考え、還元していきたい。

\*\*\* 1/12 畑中良子 (現地担当)

昨日で2年と10カ月が経った。

石巻市内での死者数 3,165 名、行方不明者 435 名。(平成 25 年 11 月末現在)

全国では死者数 15,883 名、行方不明者 2,643 名(警察庁発表、平成25年12月10日)

皆様のご冥福をお祈り致します。

時間が刻々と過ぎゆく。そんな中で宮城県気仙沼署は気仙沼市松崎尾崎周辺の海岸で、震災による行方不明者の集中捜索をボランティアと合同で実施した。昨年12月にも行われている。捜索される方の気持ちは「一人でも多くの方を家族や親せきの元に返したい」という事だろう。まだまだ終わりはない。一人でも多くの方を、一つでも多くのものが遺族の方に届いてほしい。

\*\*\* 1/17 畑中良子 (現地担当)

1月17日、午前5時46分。

19年前の今日、阪神淡路大震災が起きた。今日の石巻では同じ時間、神戸に祈りを捧げようという活動が行われた。500個のキャンドルで「祈 神戸」と書かれていた。そしてそのキャンドルには石巻の子どもたちが絵を書いたものだ。震災が発生した時刻には神戸方向に向けて黙とうを捧げた。阪神淡路大震災では死者数 6,434名、行方不明者 3名「神戸の方からかけられた言葉は何か違うものだった。」と石巻の方は3年前の震災当時を振り返っておられた。大震災からの復興。神戸は19年目に入っていく。

## \*\*\* 4. 災害支援チームからのお知らせ \*\*\*

### 【1. 協力員募集】

#### \*\*\* 現 地

1). 現在、1日あたり上限2~3名で募集しております。原則として中3日以上、平日の活動が理想的ですが、具体的な日程については、災害支援チームまでお気軽にご相談ください。

**但し、初回参加の方は活動日数を3日以上でご参加お願い致します。**

今後、活動に参加される方で初回参加の方には、簡単な資料を郵送致します。ホームページに活動カレンダーを掲載しておりますのでご覧下さい。

#### \*\*\* 事務所

引き続き募集しております。平日のみの活動ですが、1~2ヶ月に1回でも構いませんので、ご協力をお願い致します。

### 【2. 書籍販売】

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』と

『東日本大震災 医療 ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』の

販売を行っています！

発災から2011年9月30日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011年10月から2012年12月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地SWとの協働の記録を『バトンⅡ』にまとめました。ぜひご覧になってください。

尚、売上金の全額を皆様からの寄付として、本活動の資金に充てさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。

バトンⅠとバトンⅡとを同時にご購入される場合は合計冊数で送料を頂戴致します。送料表でご確認下さい。

(注文用紙はホームページからダウンロードできます)

バトンⅠ: URL: [http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=45](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45)

バトンⅡ: URL: [http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing\\_detail.php?@DB\\_ID@=47](http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=47)

### 【3. facebook】



facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いたします。

\*\*\* URL \*\*\*

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部>

[/156327867812970](http://156327867812970)

## 【4.YouTube】

昨年の災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんがVTRにまとめて下さいました。現在はサポートセンターを活動拠点としております。当時の様子を知っていただく貴重な資料として、YouTubeにアップしておりますので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。



\*\*\* URL \*\*\*

<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be>

## \*\*\* 5. 事務所より \*\*\*

\*\*\* 1/24 金子佐代子（事務所）

平成 26 年 1 月 12 日に災害支援チームの会議を日本医療社会福祉協会 会議室にて開催致しました。次号にて議事内容をお伝えいたします。

あけましておめでとうございます。ずいぶん昔ですが、全国ボランティアフェスティバル徳島大会の運営をお手伝いしていた時の大会キャッチフレーズが「輪になれ 渦になれ・・・」でした。昨年を表す漢字に「輪」が選ばれました。被災地の復興も五輪の輪のように明るいものであることを念じてやみません。今年もよろしく願いいたします。

（編集担当 鴨島病院 医療ソーシャルワーカー一同）  
東日本大震災 MSW 災害支援ニュース  
平成 26 年 1 月 24 日 第 3 卷 15 号  
作 成 徳島県医療ソーシャルワーカー協会